

## 三原で来月「防災の集い」 犠牲者追悼思い新た

三原市の天満祥典市長は11日の記者会見で、西日本豪雨災害から1年となる7月6日に「市民防災の集い」を開くと発表した。豪雨で亡くなった市内の14人（うち災害関連死亡6人、11日現在）を追悼し、講演や討論を通して地域ぐるみの防災・減災の取り組みにつなげる。また、8月上旬ごろに天満市長たちが犠牲者宅を訪問し、哀悼の意を伝える考えも示した。

集いは午前10時～正午、

三原リージョンプラザ（同1町）で開き、犠牲者に黙とうをささげる。NHK広島放送局の気象キャスター勝丸恭子さんが「気象状況から命を守る行動を考えよう」と題して講演。効果的な避難情報の伝達や避難行動について、市と調査・研究を進めている県立広島大大学院の江戸克栄教授や、自主防災組織連絡協議会の代表たちが意見を交わす。

への思いを新たにし、尊い祭壇などを設けず、「私や命を市民総ぐるみで見つめ、副市長が（犠牲者宅を）お直す一日にしたい」と強調。盆前に訪問し、追悼したい」と話した。（林淳一郎）